

# 東

三年  
筆順 戸申東  
オ トウ  
ひがし

成り立ち



木のあいだにお日さまが見えるかたちをあらわした字で、お日さまが出たばかりのすがたをあらわしたものです。お日さまの出るほうがくの「ひがし」をあらわしました。

「ひがし」ということばは、むかしは「ひんがし」といいましたが、それは「日向かし」ということばからへんかしたものです。「日が出るほうがく」といういみからつくられたことばです。

「東京」は「京都」の「東」にあるので、東の京都といういみで名づけられました。



使い方

▽京都より東方にあるちほうを東国といっています。京都がながいあいだ都だったからです。  
▽日本のことを極東というのは、ヨーロッパから見て東のはてにあるからです。

熟語例

- ▽東方(東の方。東の方がく)
- ▽東国(京都が都だったころ、京都より東の方の国のことをいいました。)
- ▽東海(東の方の海。また、むかし「東海道」とよばれた東海地方のこと。)
- ▽東洋(洋は「ひろい海」。東のひろい海にうかぶ国々といういみで、日本、中国、インドなどのアジアの国々のことをいいます。)
- ▽極東(極は「はて」。「東のはて」ということば。ヨーロッパの人たちが日本や中国などの国々のことをいったものです。)
- ▽近東(ヨーロッパに近い、トルコ、シリアなどをさしていったもの。近東と極東のあいだにあるインド、イラン、イラクなどの国々を「中東」といいます。)

# 答

二年  
筆順 父答答  
オ トウ  
こたえりえる

成り立ち



「計算」のいみをあらわした「竹」と、「合(二年137)」とをくみあわせてつくった字。「計算が合う」といういみのことばで、「こたえ」ということばをあらわした字です。「こたえ」はいつも「合う」ことがたいせつです。ね。

〔竹簡(書簡)の意味の「答」と「合」との会意・形声字で、相手の書簡に対して「返答する書簡」を表した字であるが、二年生の子供には理解しにくいので、「算」を「算(二年145)」の意味に解した。〕

使い方

▽わたしは人と問答することがが手です。だから、自問自答ばかりしていて、即答することなどとてもできません。

熟語例

- ▽問答(質問とそれに対する返答。話し合ひすることをいいます。)
- ▽返答(返事の答え。質問に応じてする答え)
- ▽応答(返事と同じいみにつかいますが、「よびかけに応じてする返事」のいみにもつかいます。)
- ▽自問自答(自分で自分に質問し、またそれに答えるというこゝで、頭のなかだけで問答をすることです。)
- ▽即答(即座に答えるということばで、質問されてすぐさまそれに答えることをいいます。)
- ▽答礼(あい手の札に答えてする札。また、あい手の札に答えて札をかえすこと。)
- ▽答弁(質問にたいして答えることば。また、質問にたいしていいひらきをするこゝで。)
- ▽答辞(式などでべられたおいわいのことばにたいする「答えのことば」のことをいいます。)